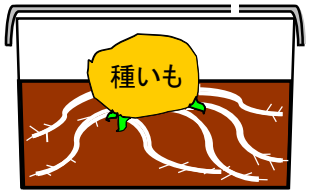
ジャガイモシストセンチュウから
ジャガイモを守る技術を開発しました

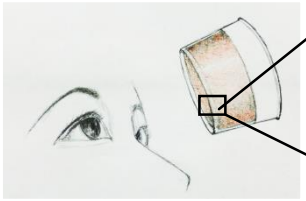
- 生産者自らが、**カップ検診法によりジャガイモシストセンチュウ(*Globodera rostochiensis*,以下Grと略)被害を予測**できるようになりました。
- 被害予測に応じて抵抗性品種を選択すれば、**減収が回避**でき、**Gr密度を大幅に下げる効果**もあります。
- 輪作に緑肥としてナス科対抗植物(栽培することで密度を減らす植物)を導入すれば、**Gr密度をさらに低下**できます。

★難防除の害虫(Gr)が北海道のジャガイモ産地に侵入、他地域へも拡大中
★従来品種はGrに弱くジャガイモ栽培大打撃 → 抵抗性品種の育成・利用を核とした効果的な対策を確立

シストを見つけて被害を予測 (カップ検診法)



・蓋付き透明プラ容器使用
・検診土壌　50～125ml
・室温暗黒で8週間培養



シスト判別

観察シスト数から**被害予測**



低密度➡ ほぼ減収なし
観察シスト数: 1～20個



高密度➡ 50%以上減収あり
観察シスト数: 100個以上

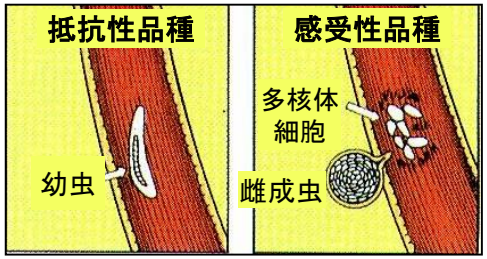
※シスト:センチュウの卵数百個が殻に包まれたもの

抵抗性品種で減収回避・密度低減

抵抗性品種の栽培で**Gr被害回避**

食べておいしい家庭用 キタアカリ とうや はるか ピルカ 紫月	**サラダやチップス加工業務用** こがね丸 さやか きたひめ
機能性を備えたカラフルポテト キタムラサキ ノーザンルビー	**でん粉原料用** アーリースターチ パールスターチ

男爵薯、メークインは感受性品種です！



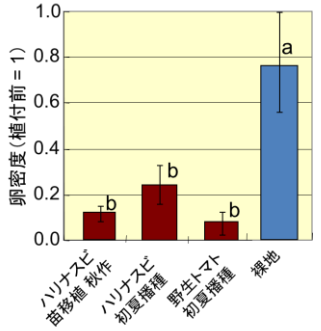
→幼虫の周りに壁、死亡　→養分を奪い成熟

対抗植物でさらに密度低減

対抗植物:栽培することで密度を減らす植物



野生トマト　　ハリナスビ



ナス科緑肥1kg/10a播種、70日栽培で
Gr密度80～90%低減

詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。
(国研)農研　機構北海道農業研究センター　地域戦略部研究推進室広報チーム　Email:cryoforum@ml.affrc.go.jp